

## シラバスのチェックにおける観点(案)

1. 教職の意義等に関する科目

(1) 法令上含めることが必要であるとされている事項を含んでいるか。

<当該科目に含めることが必要な事項（教育職員免許法施行規則第6条の表）>

- ① 教職の意義及び教員の役割
- ② 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）
- ③ 進路選択に資する各種の機会の提供等

(2) 科目の趣旨を十分に踏まえているか。

<科目の趣旨（平成10年の教員養成審議会の答申を踏まえ、各大学に示しているもの）>

- ・ 教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する知識の修得を通じ、教員を志願する者が教職についての理解を深め、将来教職に就くことについて多角的に考察する過程を援助し、動機付けを図るもの。
- ・ 職場の実体験・類似体験や他の職業との比較などの機会を教員を志願する者に与えることにより、自らの教職への意欲、適性等を熟考させるとともに、最終的な進路選択について指導・助言するもの。
- ・ 「現在の教員には何が求められているのか」、「学生自身が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」といった事項を、当該区分の授業科目の講義概要（シラバス）で示すこと（討論・グループディスカッションを取り入れるなど）。

2. 教育課程及び指導法に関する科目（各教科の指導法・理科（小学校教諭））

(1) 学習指導要領に即して包括的な内容を含んでいるか。

<教育職員免許法施行規則第6条の表備考第2号>

教育課程及び指導法に関する科目は、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第38条に規定する幼稚園教育要領、同令第52条に規定する小学校学習指導要領、同令第74条に規定する中学校学習指導要領又は同令第84条に規定する高等学校学習指導要領に掲げる事項に即し、包括的な内容を含むものでなければならない。

(2) 担当教員の専門分野に限定されない幅広い内容の指導が行われているか。

(3) 模擬授業や指導案の作成を取り入れるなど、教育現場を念頭に置いた実践的な内容・方法となっているか。

(4) 実験について取扱っているか。

## 教師論

担当教員

配当年次 2年

開講時期 後期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

関連資格 高等学校教諭 1 種免許状（地理歴史・公民）、中学校教諭 1 種免許状（社会）

備考

### 【授業のねらい】

「教育は人なり」といわれるように、子どもの教育に携わる立場にある教師の使命は重大である。教職に対する強い情熱、教育の専門家としての確かな力量、人間として教師として向上しようと学び続ける旺盛な意欲が求められる。自らが目指す教師像を明らかにしながら、教師の悩み・教師の喜びに思いを馳せ、自らの能力・資質を高め、教師を志す意志を固めていくことをねらいとする。

### 【授業の展開計画】

「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容」について具体的な事例を通して授業展開をしたい。また、この科目を通して、「私はどうありたいか」「私はどんな教師になりたいか」と考えることができるような進路選択に資する各種機会の提供を行いたいと考えている。

週	授 業 の 内 容
1	教師の専門性と理想の教師像について考える
2	教師の一日を知り、教師に求められる資質能力について考える
3	全体の奉仕者性について考える ～日本国憲法・教育基本法・地方公務員法・教育公務員特例法～
4	教師の仕事① ～学習指導・生徒指導・進路指導・教育相談等～
5	教師の仕事② ～学級経営・校務分掌・昼食指導・部活動等～
6	子どもの成長過程① ～発達段階と発達課題～
7	子どもの成長過程② ～青年期の特徴と思春期～
8	子どもの成長過程③ ～思春期の子への対応～
9	教師の使命と教師の個性 ～民主主義・人権尊重・個性重視・公平性・特別支援教育等～
10	教員の任用について知る① ～教員養成・教員免許取得・教員採用～
11	教員の任用について知る② ～教員免許更新制～
12	教員の任用について知る③ ～教員採用試験の現状～
13	教員のサービスと身分
14	教員と研修・これからの教師像
15	まとめ・試験

### 【履修上の注意事項】

「私は、どんな教師になりたいのか」を問い続け、目指す教師像を明らかにしながら、自らを高める意志を持って受講することを期待する。

### 【評価方法】

最後に行う試験を中心に（5割）、日常の小レポートや感想文等の記述内容、授業中の態度や出席率を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト・参考文献】（テキスト◎、参考文献（推薦）○）

◎文部科学省「中学校学習指導要領」◎必要に応じて資料を配付する。

# シラバス内容

(管理No. 030662)

授業科目名	授業形態	単位数	組	担任者名
教職概説	秋学期	2	1	

<b>■講義概要</b>	<p>[授業の到達目標及びテーマ] ▼</p> <p>教職をめざす立場に立って、教員としての使命感、求められる専門的知識や技法、実践的指導力、等の必要性を認識・自覚させ、教職をとりまく学校制度、職務内容、教員の役割について包括的な知識を身につけさせる。とりわけ教育実践から学び成長することの意義を理解させる。▼</p> <p>[授業の概要] ▼</p> <p>教育職員養成審議会の答申や教育職員免許法改正の趣旨を踏まえ、教員としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基礎とした実践的指導力を身につけ、教育現場の新しい現実に対応したり、新しい課題を解決したりできる能力を兼ね備えた教員の養成を目指す。そのため、以下の授業計画・内容に基づく講義を通して教育現場の仕事の内容について理解を深め、教育の実践者として必要な資質・能力を磨く契機としてもらいたい。講義の項目は、高等学校教育や教育行政に携わった経験を生かして、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の学校教育の専門性や学習指導、学級・HR経営、生徒指導、進路指導、教育制度等についての実践的・理論的な考察・説明を行う。また、教育に携わる者として、これからの生涯学習時代の動向を視野に入れた教育観の必要性に鑑み、社会教育、生涯教育の観点から学校教育の在り方を考えていくことが大切であり、様々な教育の機会や課題があることも指摘したい。</p>
--------------	---

<b>■講義計画</b>	<p>第1回 講義を始めるに当たって (受講に当たっての心構え、教育改革の潮流と教員養成在り方、教員としての新しい役割や対応課題等) ▼</p> <p>第2回 教職の歴史 (近代学校と教職の成立、教員養成の歴史、様々な教職観と教師、求められている教師像等) ▼</p> <p>第3回 教職の意義とその専門性 (教職の意義、教員免許制度の意義と教員の役割・使命、教職の倫理、教職の専門性等) ▼</p> <p>第4回 現行の学校教育の仕組み (学校制度の概要) と学校の組織および管理・運営▼</p> <p>第5回 教育の今日的課題と今後の展望 (教育の質の保証と学校の新しい機能の考察) ▼</p> <p>第6回 法令等に見られる教員の身分と職務 (勤務条件、身分保障、服務規律等を含む) ▼</p> <p>第7回 教員の職務内容と教育実践における力量形成及び研修のあり方▼</p> <p>第8回 授業力の育成 (授業設計、教材研究、指導形態、指導過程と指導技術等) ▼</p> <p>第9回 教育実践の事例 (1) [学級・HR経営の実際 (心の居場所づくり等)] ▼</p> <p>第10回 教育実践の事例 (2) [学校・家庭・地域の新しい関係づくり] ▼</p> <p>第11回 教員の養成・採用・任用▼</p> <p>第12回 生涯学習時代の学校教育の在り方とその課題▼</p> <p>第13回 進路選択としての教職への道 (社会の変化とライフデザイン・キャリアデザイン)</p>
--------------	---

<b>■成績評価</b>	出席状況、レポート、臨時試験等 (平常成績) で総合評価する。
--------------	---------------------------------

<b>■教科書</b>	毎回、講義内容のレジュメをプリントにして配布する。
-------------	---------------------------

<b>■参考書</b>	参考文献は各講義中に適宜指示する。
-------------	-------------------

科目名(副題)		開講年次(セメ)	単位	担当者名
教職入門 子どもの発達・成長を保障する学級、学校づくりと教師		2~4年次春学期 (3・5・7セメスター)	2	
授業計画				
春学期				
	項目	内容		
1	ガイダンス	本授業を開講するにあたり、授業の概要、目標、方法等をガイダンスする。参考文献等の紹介を行う。		
2	学級びらき・授業びらき	学校現場で行なわれているさまざまな学級びらき・授業びらきについて知る。		
3	子どもたちの他者関係について考える	いじめ・少年事件・学級崩壊など、現代的な課題を分析した論文をもとに、そこから子どもたちの他者関係を分析する力量を育む。		
4	現代的な課題における実践	いじめ・少年事件・学級崩壊など、現代的な課題を分析した前回の授業を生かし、学級・学校での具体的な実践の方法を授業参加者で議論する。		
5	特別なニーズを持つ子どもたちの支援と学級・学校づくり(中学校)	専門的な視点を持った関わりが必要な子どもたちとの関わりを具体的な実践例をもとに考察。		
6	特別なニーズを持つ子どもたちの支援と学級・学校づくり(高等学校)	専門的な視点を持った関わりが必要な子どもたちとの関わりを具体的な実践例をもとに考察。		
7	教科教育と学級づくり(中学高等学校)	日々の授業のもつ、学級づくりの可能性を知り、これらへの考察を深めるとともに、具体的な活動を体験する。		
8	子どもたちの他者関係を育む活動	仲間の中で、成長発達する子どもたちが、実際に行っている活動を体験する。		
9	子どもたちの他者関係を育む活動	仲間の中で、成長発達する子どもたちが、実際に行っている活動を体験する		
10	子どもたちの他者関係を育む活動	仲間の中で、成長発達する子どもたちが、実際に行っている活動を体験する		
11	行事の指導と学級・学校づくり(高等学校)	行事の指導と行事の持つ学級・学校づくりの可能性を具体的な実践例をもとに考察。		
12	教員のつながりと学級・学校づくり	学級・学校づくりにおける教員のつながりの持つ意義を知り、学年会議の持ち方など、つながりをつくる方法を具体的に考察する。		
13	地域とのつながりと学級・学校づくり	学級・学校づくり、及び、子どもの居場所づくりにおける、地域とのつながりを考察する。		
14	授業のまとめ	授業の総括を授業参加者で行なう		
15	テスト	授業終了時に論文形式のレポートを提出		

首都大学東京	教職入門	科目種別	教職科目	単位数	2	—
東京都立大学	教職入門	科目種別	教職科目	単位数	2	—
担当教員		前期	火曜日	5時限		
①授業方針・テーマ	①高校教師として、普通高校、職業高校、障害児学校での教育実践と、校長としての学校づくりの実体験を生かし、教職の面白さ、喜び、困難などを多角的に提示し、受講生とともに今日の教育、教師としてのあり方について考え、学びあう場とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②授業全体を通して、教師の基本的資質とは何か、教師としての実践的力とは何をどうすれば獲得できるのか、教師の人間的な自己形成はいかにして可能なかを明らかにする。それと同時に、受講生一人ひとりが自らの課題や適性を探求し、発見することによって教職への本格的準備を固める第一歩としたい。					
③授業計画・内容	<p>③ 1. 現代社会と教師—教師とはどういう仕事なのか。私たちの生育暦（学校体験、教師体験）から考察する。</p> <p>2. 教師の基本的資質とは何か</p> <p>3. 教師の実践的力量の獲得と、人間形成はいかにして可能か</p> <p>4. 日本の近現代の教師像に学ぶ—『二十四の瞳』、『山びこ学校』などその時代時代を切り開いてきた優れた文学作品や教育実践の検討</p> <p>5. 現代の子ども、青年の現状—非行、いじめ、不登校、学級崩壊</p> <p>6. 現代の地域・家庭と学校・教師</p> <p>7. 今日の学校はどのように成立し、どのような役割を担ってきたのか。</p> <p>8. 今日の教育改革の動向と学校の再生</p> <p>9. 今後の学校教育—授業、生徒指導等について</p> <p>10. 現代を生きる教師とは—教職へのガイダンスとこれからの多難な時代を生きる教師像を検討し、展望する。</p> <p>11. 以上のような内容であるが、ビデオやミニ・レポートなども取り入れて、活気ある授業を展開したい。</p>					
④テキスト・参考書等	④授業の内容に即して適宜資料プリント（教育に関連した詩、文献のコピー、新聞などのトピックな教育情報）を用意し、参考文献についてはそれぞれのテーマごとに授業中に紹介したい。					
⑤成績評価方法	⑤科目の性格上、レポート、小レポート、出席で総合的に評価する。					
⑥特記事項	⑥この授業は、卒業に必要な単位として加算されないので注意すること。					

# 教師論

(Indispensable Properties of Teachers)

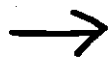
担当教員名			
科目区分 教職 必修	対象学年 1～3	開講期 後期集中	単位数 2
オフィスアワー	講義の前後に質問等を受け付けます。		
メールアドレス	teraoka@edu00.f-edu.fukui-u.ac.jp		
授業概要	教職の実際、それを取り巻く状況、そして教師教育改革の動向を知ることにより、教職の意義・専門性を学ぶとともに、教職への進路選択について考える機会を提供する。		
授業目標	・教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する知識を身に付ける。また、将来教職に就くことについて多角的に考察する過程を援助し、自らの教職への意欲、適性等を熟考させ、最終的な進路選択についての動機付けの形成を図る。		
授業計画・内容			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 教育改革と学校・教師の役割</li> <li>3. 社会の進歩と教育の機能: デューイ『学校と社会』から</li> <li>4.                    "</li> <li>5. 事例研究の考察(グループごとに)</li> <li>6.                    "</li> <li>7. グループの報告と全体討議</li> <li>8. 教師の専門性の捉えなおし 技術的熟達者から省察的実践者モデルへ</li> <li>9. ショーン "Reflective Practitioner" を読む</li> <li>10.                   "</li> <li>11. 省察的実践の事例研究</li> <li>12. 報告と討議</li> <li>13. 教職の協働の組織化(Teacher Management)</li> <li>14. 教師の専門性とは</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
キーワード	教職の意義 省察的実践者 協働の組織化 事例研究		
教科書			
参考書	東京学芸大学カリキュラム開発共同研究センター編『教師教育改革のゆくえ』創風社		
評価方法 ・評価基準	講義中の小レポート(50%)と最終レポート(50%)で評価する 評価基準: 教師の役割と専門職の中身について理解し、教職への関心が高まったかどうかについて、レポート内容より評価する。		
関連科目	教育方法論 特別活動論		
履修要件			
その他			

系別	E(教育科目)						
授業科目	教師論	学年	1年	単位	a2	担当教員	
免許科目	教職に関する科目： 教職の意義等に関する科目						
免許対象	教職・小免・中免・高免・幼免・第2欄						
授業目標	現在の学校現場における子ども・教員・保護者の実態を読み解くことを通して、社会が求める教師のあるべき姿を明らかにする。						
授業計画・内容	<p>1 ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・私が出会った良い教師・ダメ教師を思い起こす</li> </ul> <p>2 私が出会った良い教師・ダメ教師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私が出会った良い教師・ダメ教師についてグループ討論</li> </ul> <p>3 私が出会った良い教師・ダメ教師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ発表</li> <li>・まとめ 私はこんな教師になりたいミニレポート</li> </ul> <p>4 児童・生徒との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践記録を読み、虐待について考える</li> </ul> <p>5 児童・生徒との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践記録を読み、発達障害について考える</li> </ul> <p>6 児童・生徒との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待グループと発達障害グループに分かれて実践分析</li> </ul> <p>7 児童・生徒との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ発表</li> </ul> <p>8 児童・生徒との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめとミニレポート</li> </ul> <p>9 保護者との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級通信を読み、自分も学級通信を書いてみる</li> </ul> <p>10 保護者との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・崩壊家庭の保護者にであったとき</li> </ul> <p>11 保護者との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題を保護者と共に解決する</li> </ul> <p>12 保護者との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で保護者とつながるために、親の会活動から学ぶ</li> </ul> <p>13 同僚との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師になるにあたっての自分の不安・悩みをグループ討論</li> <li>・新任教師の悩みとは</li> </ul> <p>14 同僚との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種会議・公務分掌・組合活動について</li> </ul> <p>15 まとめテスト・レポート</p>						
教科書・参考書	<p>随時プリントを配布  指定の参考書・教科書はない</p>						
評価方法	<p>1 グループ討論への参加意欲  2 ミニレポート  3 最終テスト・レポート  を総合的に評価</p>						
備考							

科目名	教職入門 [Introduction to Education Profession]				
講義題目					
責任教員					
担当教員					
科目種別	教職専門科目				
開講年度	2008	開講学期	2学期	時間割番号	007246
授業形態	講義	単位数	2	対象年次	1～
対象学科・クラス			補足事項		
キーワード 教育専門職、教育基本法、教育職員免許法、学校づくり、授業づくり					
授業の目標 現代を教師として生きている人々の様々な「教師論」(映画、文学作品を含む)を取りあげ、学ぶことと教えることの原点を探りながら、受講者一人ひとりが教職観を形成していくことをめざす。					
到達目標 子ども・青年の学習権と教師の教育の自由の観点から、憲法・教育基本法制のもとにおける教職の意義及び教員の役割について考える。中学校や高等学校の教職は、確かに国語、社会(公民、地理)、数学、理科あるいは英語といった特定の教科を教える仕事ではあるが、学級経営、生徒指導、特別活動などによっても、思春期の子ども・青年の発達を支援していく、きわめて複雑な専門職である。夢や希望を育み、青年たちの「自分づくり」をサポートできるような「授業づくり」「学校づくり」の担い手として、教職の魅力と可能性について考える。					
授業計画 第一部:基礎編—子ども・教師と学校をめぐる現状と課題 (1)文部科学省「教職員の勤務実態調査」より (2)NHK「中学生・高校生の生活と意識調査」より (3)文部科学省「全国一斉学力テスト」とOBCD「生徒の学習到達度調査」より 第二部:教師論 (4)三上満の教師論—普通の人が教師になるために必要な4つの条件 (5)灰谷健次郎の教師論—子どもは小さな巨人 (6)金沢嘉市の教師論—戦前・戦後を生きた教師群像 (7)山田洋次の教師論—映画『学校』シリーズを通して (8)尾木直樹の教師論—教師格差 (9)岩川直樹・汐見稔幸の教師論—学力とはなにか 第三部:現職の先生を困んで (10)～(13)札幌地区の高等学校の四人の先生(校長先生を含む)を困んで (14)(15)まとめ					
成績評価の基準と方法 出席状況とレポート作成					
テキスト・教科書					
講義指定図書 眠れぬ夜の教師のために／三上満:大月書店, 1986 子どもに教わったこと／灰谷健次郎:NHKライブラリー, 1998. ある小学校長の回想／金沢嘉市:岩波新書, 1967 15才／山田洋次:角川文庫, 2000 教師格差—ダメ教師はなぜふえるのか／尾木直樹:角川新書, 2007 「学力」を問う／岩川直樹・汐見稔幸:草土文化, 2001					
参照ホームページ					
備考					



算数科教育法	児童学科	秋
	2年	2単位
<p><b>目的</b>            小学校算数科における指導内容について、現行の学習指導要領及び算数的活動について概観したあと、4つの領域ごとに単元を追って解説していく。その際に、教師と児童の両方の立場で教材が考察できるようにする。            さらに授業実践の立場から、教材の事例集などをもとにして自力で本時の展開が作成できるようにする。</p> <p><b>成績評価</b>            出席30%、レポート20%、定期試験50%</p> <p><b>教科書</b>            『小学校算数科指導の研究』（平岡忠編，建帛社）</p> <p><b>備考</b>            算数①を受講していることが望ましい。</p>	<p><b>授業内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 学習指導要領と教科書の歴史</li> <li>③ 算数的活動について</li> <li>④ 数と計算（低学年）</li> <li>⑤ 数と計算（中学年）</li> <li>⑥ 数と計算（高学年）</li> <li>⑦ 量と測定（下学年）</li> <li>⑧ 量と測定（上学年）</li> <li>⑨ 図形（低学年）</li> <li>⑩ 図形（中学年）</li> <li>⑪ 図形（高学年）</li> <li>⑫ 数量関係（下学年）</li> <li>⑬ 数量関係（上学年）</li> <li>⑭ まとめ</li> <li>⑮ 定期試験（90分）</li> </ol>	



理科教育法	児童学科	春
	3年	2単位
<p><b>目的</b>            現行の小学校学習指導要領における理科の目標及び内容を確認したうえで、初等理科教育に携わる者が理解しておく必要がある自然科学の論理を解説する。さらに、主体的あるいは体験的な学習を重視する理科教育における指導法の考え方を中心に学び、指導計画作成の練習も行う。また、発展的学習や総合的な学習に臨機応変に対応できる教師に成長するために必要な課題を提案したい。</p> <p><b>成績評価</b>            受講状況20%、小テスト30%、教材研究課題レポート50%</p> <p><b>教科書</b>            角屋重樹・森本信也『小学校理科教育はこう変わる』学校図書</p> <p><b>備考</b></p>	<p><b>授業内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 理科と自然科学の関係</li> <li>② 新学習指導要領における理科教育の目標と内容</li> <li>③ 年間計画と学習指導案の作成法</li> <li>④ 観察・実験器具の取り扱い方</li> <li>⑤ 理科における教材研究とは？</li> <li>⑥ 問題解決学習の意義と欠点を考える</li> <li>⑦ 理科の学力につながる野外観察の実践とは？</li> <li>⑧ 理科における先行学習の導入を考える</li> <li>⑨ 飼育動物の理科教材としての利用法</li> <li>⑩ 動物園・博物館等の公共施設の利用法</li> <li>⑪ 模擬授業（1）：比較観察を指導する授業</li> <li>⑫ 模擬授業（2）：因果関係を発見する授業</li> <li>⑬ 模擬授業（3）：仮説を立て検証する授業</li> <li>⑭ 模擬授業（4）：協同作業・討論を促す授業</li> <li>⑮ 模擬授業の反省討論／教材研究発表</li> </ol>	

## 教科教育法（理科）

担当教員

配当年次 3年

開講時期 前期

単位区分 選択

授業形態 演習

単位数 2

関連資格 小学校教諭1種免許状

備考 A・Bクラス別開講

## 【授業のねらい】

Science のジャンルは、物理・化学・生物・地学・天文学等があり、その領域はとても広い。しかしながら、自然に親しみ、観察や実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を図り、科学的な見方や考え方を養うことを目標とするこの教科を学ぶには、その内容を理解するだけでなく、楽しい授業を行える力を身に付けなければならない。

## 【授業の展開計画】

理科教育を学ぶにあたって、まずその歴史を知ることが必要である。そのうえで自然に親しみ、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象の理解を図り、科学的な見方や考え方を養うことを目標とし、(1)生物とその環境、(2)物質とエネルギー、(3)地球と宇宙の三つの内容について学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	明治以前の理科教育史。 学制、および教育令時代の科学教育。
2	学校令（小学校令）時代の理科教育。
3	大正デモクラシー時代、および国民学校令時代の理科教育について。
4	戦後の理科教育。特に現代化運動と、それ以後の理科教育の流れについて。
5	学習指導要領の変遷。
6	生物とその環境(1)。植物の観察および栽培について。
7	生物とその環境(2)。動物の観察と飼育について。
8	生物とその環境(3)。人の体のつくり。人の活動と環境について。
9	物質とエネルギー(1)。物の性質と光・音について
10	物質とエネルギー(2)。物の性質と電磁気。電流と発熱について。
11	物質とエネルギー(3)。空気・水の性質。物の溶け方。燃焼と空気について。水の三体変化の実験
12	地球と宇宙(1)。日なたと日陰。天気と気温の変化について。
13	地球と宇宙(2)。太陽・月・星について。
14	観察や実験について。特に実験を行う時の注意点、問題点について。
15	指導案作り。

## 【履修上の注意事項】

実験や観察の機会を出来るだけ多く取り入れる。  
 具体物に直接触れることの重要性を理解させる。

## 【評価方法】

出席を重視し、レポート等で評価する。

## 【テキスト・参考文献】（テキスト◎、参考文献（推薦）○）

○「小学校学習指導要領解説 理科編」 文部科学省

授業科目名	必修 選択	単位	学期 曜・限	対象者	担当教員名 (所属)
理科指導法 (小) Methodology of Science Teaching (Primary School)	必修	2	後 木 1	2 教	
<b>【授業のねらい】</b> 理科授業を構成し、実施できる能力を身につけることをねらいとする。そのため、具体的な教材を想定しながら、理科授業の特徴や、児童と自然との関わり、観察や実験の指導法について学習する。					
<b>【具体的な到達目標】</b> 1. 小学校教育における理科の位置づけと役割を理解できる。 2. 理科教育の必要性を、さまざまな観点から考察できる。 3. 小学校で扱う理科教材について、自然科学的な背景や指導法の特徴を理解できる。					
<b>【授業の内容】</b> 1. 授業概要の説明、これまでの理科の授業の経験を振り返る 2. 理科の目標、理科を取り巻く情勢（理科離れ、科学技術創造立国など） 3. 小学校学習指導要領の構成（理科の目標及び内容、指導計画の作成） 4. 観察や実験の役割、附属小学校における理科の授業記録1 5. 授業計画の立案、附属小学校における理科の授業記録2 6. 理科授業の内容と指導方法の検討1（B領域を例にして） 7. ノート指導、観察・実験プリントの作成 8. ものづくりの意義と指導方法、観察、・実験の安全指導 9. 理科授業の内容と指導方法の検討2（A領域を例にして） 10. 理科授業の内容と指導方法の検討3（C領域を例にして） 11. 理科における評価方法 12. 理科授業の内容と方法（C領域から） 13. 理科の授業と環境教育などとの関連 14. 理科の授業を通じた人間の育成 15. 授業のまとめ					
<b>【時間外学習】</b> 指導計画や授業プリントの作成など、4～5回程度課題をだす。					
<b>【教科書】</b> 小学校学習指導要領または小学校学習指導要領解説（理科編）					
<b>【参考書】</b>					
<b>【成績評価の方法及び評価割合】</b> 期末試験 50% 出席 30 % 課題レポート20%					
<b>【注意事項】</b> 受講生は、自分が小学校の教員になったつもりで、理科の指導法を考えてもらいたい。なお遅刻厳禁である。（授業開始後すぐに出席カードを配布する。）					
<b>【備考】</b>					

系列	M1(小学校教科教育科目)					
授業科目	理科教育A	学年	3年	単位	a2	担当教員
免許科目	教職に関する科目： 教育課程及び指導法に関する科目、小学校の各教科の指導法・理科					
免許対象	教職・小免・第4欄					
授業目標						
<p>小学校理科教育を実践する教師に必要な理科教育に関する基礎的内容を、学生に考察させて理解させる。特に、理科教育の社会的役割と人間形成への役割。理科教師の在るべき姿と教師の活動内容、児童の自然認識や問題解決能力の実態把握、多彩な理科学習指導方法などを幅広く論究させて、学生自身が確固たる理科教育観を持つことができるようにする。</p>						
授業計画・内容						
<p>各時間の内容は次の通りである。各内容の基礎情報はテキストに示してあり、この基礎情報を先ず学生が読み、次に、その内容に関する意見をみんなの前で順に述べる。その際、提案された意見について学生同士で意見交換をする。また、それに教員も加わって意見を述べる。このような討論形式の授業形態で理科教育を深く考えさせ、練り上げることによって教育観を形成できるように授業進行をする。取り上げる授業内容と計画は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 理科教育の視点から教育と社会動向の関連性考察(1) 社会と科学の関わり</li> <li>2 理科教育の視点から教育と社会動向の関連性考察(2) 戦後の教育改革</li> <li>3 学習指導要領の変遷と理科教育</li> <li>4 平成20年告示の新理科学習指導要領の改善点と方向性</li> <li>5 子どもの実態と子どもの学び(1) 子どもは自然をどう捉えているのか</li> <li>6 子どもの実態と子どもの学び(2) PISAやTIMSSの国際調査からみた日本の子ども</li> <li>7 子どもの実態と子どもの学び(3) 新指導要領下での子どもの学び力</li> <li>8 理科の学習指導(1) 実生活と結びつく学習の構成法</li> <li>9 理科の学習指導(2) 思考や興味を喚起させる観察実験のいろいろ</li> <li>10 理科の学習指導(3) 観察実験を軸にした学習指導展開法</li> <li>11 理科の学習指導(4) 探究活動の仕組み方</li> <li>12 理科の学習指導(5) 体験活動を通して生物好きにさせる手だて</li> <li>13 理科授業の構成法</li> <li>14 理科の教育評価法</li> <li>15 定期試験</li> </ol>						
教科書・参考書						
理科教育研究会著：「新指導要領の応える理科教育」、東洋館出版社、2009。						
評価方法						
評価基準は教科書の内容に沿ったものにする。評価方法は毎時間行う小テストと15週目の定期試験を合計して得点化する。						
備考						
特になし						

## 科目情報

科目名	初等理科教育		
学段			
学期	b	前期	
月	月2	理科共通実験棟 第一共通実験室	
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小学校における理科の学習内容のいくつかをとり挙げ、認識のプロセスを実践的に検討する。</li> <li>2. 受講生それぞれが具体的な学習テーマについて教材研究を行い、学習指導案にまで仕上げる。</li> <li>3. 現在の日本の理科の課題と今後の方向について検討する。</li> </ol>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分がおもしろいと思う理科の手がかりをつかむ。</li> <li>2. 「自然の何をどう学ぶことに意味があるのか」、また「子どもの学びにおける教師の役割は何か」について、問題意識を深める。</li> <li>3. 現在の理科教育の課題について問題意識を深める。</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然に親しみながら理科の内容を考える             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生物に関連した例</li> <li>2) 地学に関連した例</li> <li>3) 物理に関連した例</li> <li>4) 化学に関連した例</li> </ol> </li> <li>2. 理科の授業を計画してみる             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自分がおもしろいと思う現象について、自分がおもしろいと思う展開を考える</li> <li>2) 理科のおもしろさの条件を考える</li> <li>3) '概念の獲得'とはどういうことかを考える</li> <li>4) 学習指導案の要素について考える</li> <li>5) 学習指導案をつくる</li> </ol> </li> <li>3. 理科教育の問題点と改善の方向             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 物をとらえる二つの視点</li> <li>2) 学びを構成す</li> </ol> </li> </ol>		
テキスト・参考書及び自学自習についての情報	小学校学習指導要領、文部省著、大蔵省印刷局発行。 変わる理科教育の基礎と展望、理科教育研究会著、東洋館出版社発行。 その他、必要に応じて授業の中で紹介する		
授業の形式	講義、および個人とグループによる活動		
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	平素の授業への参加度(50%)、提出物やレポート(50%)		
本授業に関する情報			
その他			